

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立伏古北小学校

1 学校教育目標

自ら学び、たくましく生きる力と豊かな心をもつ子の育成

2 目指す子ども像

- 自ら問題をもち、筋道を立てて考える子どもの育成(知) ～かんがえる子～
- 友達と仲良くし、思いやりのある子どもの育成(徳) ～なかよくする子～
- 明るく、責任をもてる子どもの育成(徳) ～がんばる子～
- 進んで体をきたえる子の育成(体) ～はつらつとした子～

3 学校重点課題

「つながりを大切にする学校」
 ～かかわりあい笑顔あふれる伏古北～ たくさんの「つながり」の中で子どもを育てる
 ・思いをつなげる ・学びをつなげる ・心をつなげる ・体をつなげる ・教職員とつながる ・保護者とつながる ・地域とつながる

4 自己評価結果 A 当てはまる B やや当てはまる C あまり当てはまらない D 当てはまらない

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
Ⅰ 一人一人を大切に 育つための 支援・教	①特別支援教育を理解し、子ども一人一人の教育的ニーズに応じた学びの支援や児童指導を行っている。	A	子ども一人一人を理解し、適切な学びの支援や児童支援を行えるようにする。特別支援学級と交流や共同学習を進めていく。	A	A
	②新たな不登校を生まないように、未然防止の取組や組織的な対応に努めている。	A	子ども支援委員会を中心に組織的な行い、オンライン授業や相談支援パートナーの活用など、その子に応じた対応を行っている。	A	A
	③多様性や性別によらない対応を心がけ、教育活動での配慮に努めている。	A	子どもたちの呼び方は男女関わらず、「〇〇さん」とするなど、教育的な配慮を心がけ、どの子も安心して学校生活を送ることができるようにする。	A	A
学校関係者評価委員の見解		・多様な子どもたちにそれぞれ目を配りながら、「かかわり」と「つながり」を通じて、様々な課題に向き合い、子どもたちの集団を育てていってほしい。 ・放課後など先生と子どもたちが笑顔で会話している姿をよく見る。今後も子どもたちとよい関係を築いていってほしい。 ・教育活動にユニバーサルデザインの考えを取り入れていくと、困りをもっている子どもたちがわざわざカミングアウトしなくても安心して過ごしていけるのではないかと。			
Ⅱ 学びをつなげる (自ら学ぶ子の育成)	④自ら考え、判断し、表現する学習活動のような課題探究的な学習の充実を図っている。	A	今後も子どもが主体的に課題解決に取り組むことができるように、単元や授業構成を工夫していく。	A	A
	⑤学習指導と学習評価の一体化を図り、AARサイクルの視点にそった授業改善や適切な評価に努めている。	B	全員が公開授業を行い授業改善に取り組んだ。次年度もAARサイクルを意識した授業を心がけ、児童の主体性を高めるとともに、教師の授業力向上を目指していく。	A	A
	⑥学びの質を高めるICTの活用を工夫するとともに、子どもの情報活用能力の育成に努める。	B	ICTの活用によって学級や学年で差が見られた。ICTの特性を生かした授業や個別最適な学習の充実を図るために、研修などを通じて全職員が共通して実践できるようにしていく。	A	A
	⑦子どもの思いやアイデアを生かし、さっぼろっ子自治的な活動の取組を進めている。	B	児童の発達段階に合わせ、児童委員会やクラブ活動、異学年交流、係活動、教科の学習など多様な場面で、児童のアイデアを生かして主体的な取組ができるよう関わっていく。	A	A
Ⅲ 心をつなげる (心豊かな子の育成)	⑧子どもを理解し、支援する学年学級経営を行い、学校が心温まる場所となるよう努めている。	A	シャボテンログも活用しながら日常的に子どもの様子を見取り、子ども一人一人が大切にされる学級経営の実践を行う。	A	A
	⑨スマイル活動やクラブ、委員会活動、あおぞら学級との交流学習を通して、異学年や仲間と協力する心を育てている。	A	発達段階に応じて内容やねらいを明確にし、十分に振り返りを行うことで、子どもたちが見通しをもって活動できるようにする。	A	A
	⑩返事や挨拶、言葉遣い、思いやりのある廊下歩行などにより、人とのよい関わり方、規律ある学習態度を身に付けている。	B	「あいさつ、廊下歩行よびかけ週間」「ふわふわ言葉キャンペーン」の取組を継続する。各部との連携や、児童の主体的な働きかけを促し、日常的に児童が意識して生活できるよう働き掛けていく。	A	A
	⑪いじめ基本方針に基づいたいじめの防止、早期発見、組織的な対応に努めている。また、命を大切にする教育、指導の徹底に努める。	A	定例のいじめ防止対策委員会などを通じて、情報共有を図りながら、組織的な対応を行う。命を大切にする教育は、養護教諭、ゲストティーチャー(助産師、産婦人科医)なども活用し効果的な学習となるようする。	A	A
	⑫豊かな心を育むように読書活動を計画的に実施したり、内容の充実に努めたりしている。	B	日常的に読書に親しむことができるように、朝の時間(おっほん)や国語科での並行読書などの活動を工夫する。また、子どもたちが読書に興味をもてるように、読み聞かせや読書週間の取組の工夫をしていく。	A	A

IV 体を つな げる (たく まし い子 の育 成)	⑬三間(仲間、時間、空間)の創出による運動機会の充実を図る取組、休み時間の推進、マッスルタイムやチャレンジ週間の工夫などから子どもの運動や体力づくりへの関心を高めている。	A	遊ぶ場や用具の工夫に加え、委員会活動等も活用して運動機会と運動時間の確保を行い、日常的な運動習慣へとつながるようにする。	A	A
	⑭日常的に健康三原則(食事、運動、健康)について啓発し、子どもの健康への意識を高めている。	B	家庭科、保健・体育の学習や食育の学習、日常の指導を通じて、児童が自分の体や健康についての関心を高めていけるようにする。また、学校だよりやホームページなどを通じて、学校の取組を発信し、家庭への啓蒙を図っていく。	A	A
学校関係者評価委員の見解		<p>・主体性を育てるためには、目標はもちろんだが、それぞれの興味や好奇心を引き出す工夫が重要だと思う。時間はかかると思うが、粘り強く取り組んでいてほしい。</p> <p>・言葉遣いに関して、良くない言葉を日常的に使う子はほとんどいないように感じる。主体的に挨拶できるよう、地域の大人として声掛けをしていきたい。町内会のパトロールでは共通のユニホームを着ているせいから挨拶する場面も多い。みまも一隊の活動でも、そのような取組があると子どもたちに分かりやすかもしれない。</p> <p>・子どもたちが読書に興味をもつ最初のきっかけは、読み聞かせだと思う。担任以外に、委員会や保護者や地域のボランティアなどの読み聞かせも活用しながら、子どもの意欲を高めていてほしい。</p> <p>・保護者自身が健康的に望ましい生活ができていない家庭もある。学校から食事、運動、睡眠等で何に問題があるのか、何に注意してほしいのか具体的にお知らせしていくとよいのではないかな。</p>			
V 教職 員が つな がる (教職 員の よさ が生 かされ る取 組)	⑮専科指導、学年交換授業、合同授業などに取り組み、教職員のよさや得意分野を生かして子どもを育てている。	A	学年での打ち合わせや教材研究の時間を確保し、担任が授業のねらいや流れを確認して、交換授業や合同授業に積極的に取り組めるようにしていく。	A	A
	⑯子どもの育ちや課題、活動や学びのつながりを共有し、全職員で子どもを育てるように努めている。	A	定例の職員集会、子ども支援委員会、いじめ防止対策委員会などを通じて、児童の様子を交流し全職員の共通理解を図り、教育活動を進めていく。	A	A
	⑰学校における「働き方」を見直し、授業準備や校内研修、児童と向き合う時間を確保し、教育の質の維持向上を図っている。	B	行事の見直し、会議の精選など、これまでの業務改善プランをさらに見直し、教育の質の向上に向けて教育活動の精選と業務改善の取組を推進する。	A	A
VI 保護 者と つな がる ・地 域と つな がる	⑱参観懇談、お便りなどで情報発信したり、子どもの変化に気づき保護者と交流することで、家庭との連携に努めている。	A	行事や学習参観、土曜参観などで、子どもたちの学びの様子を保護者や地域へ発信していくとともに、ホームページ、すぐーるの活用しながら日常的に情報を発信していく。	A	A
	⑲生活安全、交通安全、災害安全について日常的に指導し、子どもの意識を高めている。	A	児童の安全への意識を高めるために、季節に応じて適切な指導を行っていく。	A	A
	⑳グラウンドデザインを基にパートナー校の方向性や取組を共有し、小中一貫した教育を進めている。	B	パートナー校と連携を取りながら、グラウンドデザインを基に方向性や取組を共有し、子どもたちを育てていく。	A	A
	㉑教育活動のねらいや効果を考え、地域の人材や保護者ボランティアを積極的に活用している。	B	PTA活動とも連携し、プール学習、スキー学習のボランティアからさらに取組を広げ、安全、スムーズに学習を進めていけるようにする。	A	A
学校関係者評価委員の見解		<p>・今後も保護者や地域とのつながりを大切に取り組んでいてほしい。</p> <p>・コロナ後とデジタル普及の下で、保護者や地域との「つながり」「連携」を進める方法やノウハウを磨き、それぞれで荷を分かち合いながらチーム創りを進め、業務改善が進むことを期待している。</p>			